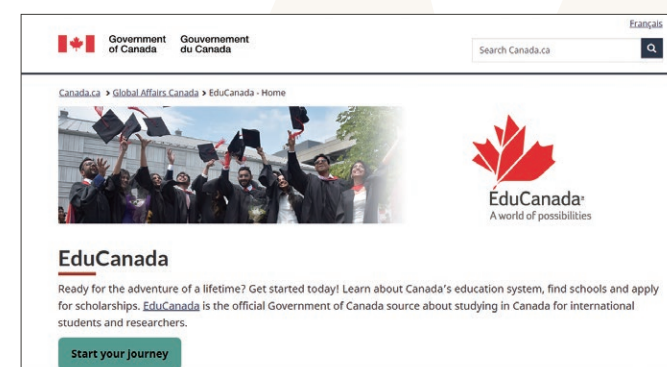


カナダ大使館では、 あなたのカナダ留学を叶えるために 役立つ情報を提供しています

自然、教育、治安、人柄。すべてにおいて豊かなこの地で、
あなたの留学を叶えてみませんか？

website Canada.ca/Canada-And-Japan X [@CanadaNihon](https://twitter.com/CanadaNihon) f [@CanadaNihon](https://facebook.com/CanadaNihon)



カナダ政府公式 留学情報サイト
EduCanada
educanada.ca



▶ カナダ留学フェア

年に2回、春と秋に開催されている「カナダ留学フェア」を後援・参加しています。留学フェアには多数のカナダの教育機関が来日し、日本語で個別相談に応じています。また、大使館スタッフによるカナダ留学に関する個別相談も行っており、各種留学セミナーも実施しています。小・中・高校留学やサマープログラム、語学学校、カレッジ、大学やIECワーキングホリデーなど、カナダ留学に関する最新情報の入手や目的に応じた学校を見つけるチャンスです。

▶ カナダ留学奨学金

カナダ留学には、クィーンズ大学の同窓生であり日本とカナダの友好関係に多大なる貢献をされた高円宮殿下を記念して設立された「高円宮記念クィーンズ大学留学奨学金」のほか、さまざまな奨学金が提供されています。カナダ政府の公式ウェブサイト（右二次元コード参照）から詳細情報を入手、検索することができます。



カナダ大使館はみなさんの訪問を歓迎しています

4階ホール、カナダ・ガーデン、高円宮ギャラリー、E・H・ノーマン図書館のほか、一般公開エリアを自由に見学できます。



入館には政府発行の写真付き身分証明書（パスポート、運転免許証、国家資格カード、住民票、マイナンバーカード等）、または2種類の身分証明書（健康保険証と有効期限が切れていない写真付き身分証明書）が必要です。詳細はウェブサイトをご確認ください。

▶ E・H・ノーマン図書館 留学資料コーナー

カナダ政府や公的団体が作成した留学案内資料のほか、カナダ各地の大学、カレッジ、専門学校、語学学校、高校、教育委員会のパンフレットを展示しています。持出禁止の資料を除き、自由にお持ち帰りいただけます。また、館内のパソコンでカナダの教育・学校に関する最新情報をインターネットで検索することもできます。E・H・ノーマン図書館は、月曜日～金曜日に開館しています。来館の際は、ウェブサイトで休館日を確認してください。



営業時間 13:30 - 17:30 (最終入館 17:00)
休館日 土・日曜日と大使館の休日

E・H・ノーマン図書館

1991年、現在の大使館庁舎ビルの完成にともない、カナダを紹介するための文化施設のひとつとして、アート・ギャラリー、シアターと共に、同ビルの地下2階に設置されました。2001年5月、カナダ大使館新庁舎開館10周年にあたり、生涯を通じてカナダと日本人の相互理解と友好促進に力を尽くしたカナダ人歴史学者・外交官、E・ハーバート・ノーマン（1909～1957）を記念して「E・H・ノーマン図書館」と命名され、現在に至っています。カナダに関する図書を中心に、参考用・一般貸出用を合わせ約15,000冊を所蔵しています。その約85%は英語・フランス語、約15%が日本語です。図書館はどなたでも無料でご利用いただけます。お気軽にお立ち寄りください（大使館入館には政府発行の写真付き身分証明書のご提示が必須です）。



▶ 大使館 バーチャルツアー

カナダ大使館のYouTubeチャンネル「Canada in Japan」では、大使館バーチャルツアーも公開しております。日系カナダ人の建築家、レイモンド・モリヤマ氏によって設計されたカナダ大使館は、カナダガーデン、ダイニングルーム、イベントスペース、ギャラリー、図書館、シアターなど、多くの一般公開スペースを備えています。



▶ 大使館 高円宮記念ギャラリー

カナダへの留学経験や日本とカナダの友好に尽力された高円宮殿下の功績を称えて名付けられたギャラリーです。次ページに登場するEEPOMONをはじめ、カナダの芸術家の絵画、彫刻、写真、テキスタイル、デザインなど、さまざまな作品を展示しています。現在開催中の展覧会の情報などは、右二次元コードを参照してください。





カナダ大使館 Presents Special Interview

「不確実性こそが冒険」 デジタル・アーティスト EEPMON アートとテクノロジー、そしてカナダ が語る での学び

EEPMON のはじまりは 「スーパーマリオブラザーズ」

Jean-Francois(以下、JF) :Eric さんは、デジタル技術やデータを駆使した独自のアート作品を生み出しているようですが、この創造性とテクノロジーの融合は、自然に生まれたものなののでしょうか？

EEPMON (以下、Eric) :私は子どものころ、いつもテレビゲームをしていました。大好きだったゲームは、日本のみなさんもよく知っている任天堂の「スーパーマリオブラザーズ」です！あの「マリオ」が色鮮やかな世界にいるのを見て、本当にワクワクしました。ピクセルで描かれたキャラクターを、画面上で自由自在に動かせるのですから。私は、偶然・反復・双方向性を組み入れたコンピューター

プログラムによって生み出される生成アート作品を制作していますが、この分野に興味を持ったきっかけは、「スーパーマリオブラザーズ」でした。

JF :スーパーマリオですね！よくわかります。私もたくさんのテレビゲームから刺激をもらいました。

Eric :「ゲームの話をして」といわれたら何時間でも話せますが、今日はやめておきましょうか(笑)。話を戻すと、アートへの情熱をカタチにするために、ビジュアルアーツのプログラムで知られ、芸術のカリキュラムが充実していたカンタベリー高校に進学しました。高校では、アクリル画、鉛筆画、人物デッサン、写真、エッチング、陶芸といった芸術の基礎を学びました。卒業後、新しいことに挑戦したいと考えていた私が特に興味を持ったのは「テクノロジー」でした。そのため、高校卒業後はメディアとテク

ノロジーのプログラムで知られるアルゴンキン・カレッジに進学しました。

JF :そのときに EEPMON の基礎が築かれたのですね。

Eric :そうです。とはいっても、当時の私にはプログラミングについての知識は、ほとんどありませんでした。

カレッジから大学へ… さらに Co-op で職業経験も積む

JF :アルゴンキン・カレッジでは、具体的にどんなことを学んだのですか？

Eric :プログラミング言語、Web ベースプログラミング、スクリプト言語、C++、低レベルプログラミング、少し高レベルな Java といった世界に触れました。ソフトウェア工学のドキュメント作成も学びました。カレッジでは、

2026 年 1 月 22 日～ 5 月 12 日、カナダ大使館の高円宮記念ギャラリーで、カナダを代表するデジタルアーティスト EEPMON の展覧会「デジタルアートが生み出す無限の世界」が開催されました。展覧会に合わせて来日した EEPMON こと Eric Chan 氏に、カナダ大使館で広報および教育を担当する一等書記官 Jean-Francois Renaud 氏がインタビューしました。



EEPMON (Eric Chan)

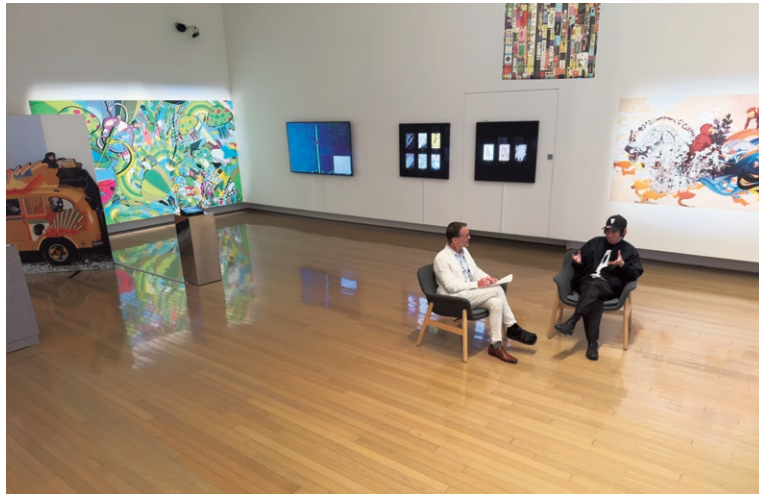
カナダ・オタワ出身のデジタル／生成アーティスト。美術、デザイン、テクノロジーを横断し、コンピューターコードやデータを用いた作品を制作しています。Canada Goose、Marvel Entertainment、Microsoft などとの協働でも知られ、近年は生成アートを通じて、文化、記憶、都市、自然、そして人と人とのつながりを表現しています。2025 年大阪・関西万博では、「文化の再生」というテーマを探索するカナダバビリオンの中心的なデジタルアートとして「Constellations - The Flow of Belonging」が展示されました。日本との関係も深く、東京・渋谷や新宿の都市の光から着想を得た「CityLights」シリーズなど、日本からの影響が作品に反映されています。

批判的思考に力を入れました。批判的思考では物事を筋道立てて考え、全体を整理して判断する力を鍛える必要があります。専門知識や実践的な知識は大切ですが、正しく疑い、考えを整理し、判断する力も同くらい重要です。

JF :カレッジを卒業した後は、カールトン大学にも進まれていますね。

Eric :はい。カールトン大学では、インタラクティブ・マルチメディア&デザイン (IMD) の学士号を取りました。大学では、アートやデザインでの創造性と、ソフトウェア工学やプログラミングの世界を融合させる必要がありました。これらは従来、分断された状態で機能していましたが、いまはゲームやマルチメディア業界など多くの産業で、このふたつの分野を統合することが求められています。

JF : Eric さんは大学やカレッジで、Co-op (コープ=職



EEPMON のインタビューは、カナダ大使館の高円宮記念ギャラリー内で行いました。



Jean-Francois Renaud
(Interviewer)

在日カナダ大使館 一等書記官。
広報・教育を担当し、カナダの
教育、文化、芸術の魅力を日本
に紹介する活動に携わる。教育
機関や文化団体との交流促進に
も取り組み、カナダ留学や国際
的な学びの機会について情報発
信を行っています。

業体験)を経験されたと聞きました。Co-op での体験について、詳しく話していただけますか？

Eric：私はカナダ中央銀行で Co-op に参加し、Web & IT スペシャリストとして働きました。当時、社内の会議スケジュール管理アプリをはじめ、構築が必要な内部向けのウェブサイトがたくさんあり、私はそのチームの一員でした。私にとって、このときの経験はとても貴重なものでした。なぜなら、適切なウェブサイトをつくるためには、さまざまな人たちと連携しなければならないからです。多くの人とコミュニケーションを取り、ひとつのものを創り上げるのは非常に重要な経験です。もし、これを読んでいる学生にインターンシップの機会があるなら、ぜひそのチャンスをつかむよう勧めます。経験を積むことができるし、履歴書を充実させることができる。一石二鳥ですから。

たどり着きたい場所に縛りがない 多様でオープンなカナダの環境

JF：カナダの社会が、あなたの成長や進路に、どのような影響を与えたかについて聞かせていただけますか？

Eric：私はオタワで生まれ育ちました。多様性や開放性、文化の融合など、カナダという多文化社会で暮らすことは、私にとってはごく自然なことです。バスに乗っていても、授業へ向かっていても、周りにいる人たちは皆、自分とは違う。つまり私はすごく多様なグループの一員で、このことは私の DNA に刻まれているんだと思います。

JF：あなたの場合、カナダという国は、キャリアを築く上でどのような環境でしたか？

Eric：昔も今も、カナダは私にオープンな環境を提供してくれています。カナダには、自分がたどり着きたい場所へ

至るための道はたくさんあり、どの道を歩かなければいけないとか、特定の期間でゴールしなければいけないという縛りもありません。だから、私は長い間学校に通いました。「なぜ？」といわれれば「必要」だったから。カナダは、多くの方法を模索することを奨励していると思います。

さまざまな経験を積む中での試行錯誤が 本当の「学び」になる

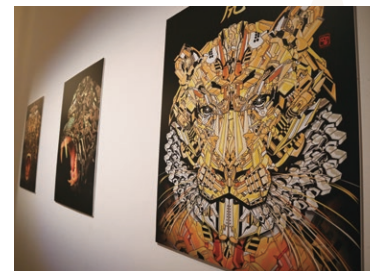
JF：試行錯誤やチャレンジについては、どうでしょうか。カナダの教育システムでは常に「失敗すること」「途中で方針を変えること」を、大切にしていると思いますが。

Eric：私もそれを実感しています。私は失敗をたくさんしたし、試行錯誤をする中で間違えてしまうのは、正当なことだと思います。本当の学びはそこで生まれるのですから。「学ぶ」ことは「勝つ」こととは違いますよね。成功と失敗にはっきりした定義など、そもそも存在しない。これらは、すべて「経験」という同じ場所にあるのです。試行錯誤、つまりさまざまな経験を積むことは本当に重要だと思うし、異なる分野を組み合わせで課題を解決する学際的なアプローチは、カナダの教育機関の大きな強みです。



JF：カナダは「物事の見方に唯一の道など存在しない」という点を、ずっと強調しています。これはすばらしいことですが、カナダで提供されているプログラムの多さや柔軟さに圧倒されてしまう人もいかもしれません。Eric さんは、どうやって選択したのでしょうか？

Eric：私はアートもテクノロジーも好きですが、「絶対にこれだ」と決めていたわけではありません。ただ、「アートが好きだから探求してみよう」という自分の直感に従っただけです。そして、その後「自分で動くキャラクターを創りたい」と思い、コンピューターを理解するための道を選んだ。これらは本当に両極端な分野ですよ。でも、それが私が進んできた道です。あることがある入口へ導き、別のことがまた別の入口につながる。そうして自分のスタイルを、急がず自然に、確かな基礎を築き上げてきました。カナダの学校が提供してくれるのは、まさに「探求したい方向に進むための入口」だと考えています。



The Metal Tiger (Mecha Art Series)



The Delightful Tea Party Bots Revised 2022



Constellations - The Flow of Belonging 2025

しれない領域に飛び込むことに抵抗がないか、ということです。自分にとって未開拓な分野に踏み込むことは、将来チャンスをもたらす可能性もあります。方向転換のやり方を知り、それを伝える能力を持つことが大事だと思います。そしてこのようなスキルは、教育を通じて身につけられるもののなのです。

異なる世界を調和させる日本の力は インスピレーションと活力の源

JF：Eric さんは日本に、どのようなインスピレーションを感じますか？

Eric：私は日本を何度も訪れています。そうですね、もう 100 回は来ているんじゃないでしょうか、数えたことはないけれど (笑)。私が何度も日本に戻ってくる理由は、いつも「インスピレーションと活力」が得られるからです。私がインスピレーションを感じるのは、日本が伝統や文化遺産、職人技を今も守り続けているという事実です。茶道であれ着物の帯の意義であれ、また障子ひとつにしても、日本人はニュアンスや細部を本当に尊重していますよね。たとえば、庭園を眺めていると、すべてが伝統に根ざして

アイデアを伝える「プレゼン能力」と 「方向転換を恐れない」ことの大切さ

JF：アーティストとして、また起業家として活躍される中で、重要なマインドやスキルは何だと感じていますか？

Eric：大いに役立つのは、人前で話すこと、つまり「プレゼンテーション能力」だと思います。現代社会において、人前で話す能力はとても重要だと思います。もちろんツールを学ぶことも重要ですが、それを明確に表現し、自分のアイデアを人に伝えられなければ、まだ半分しか達成できていないことになります。私も、人前で話すのが得意ではありませんでした。学校で何度もやってみて試行錯誤し、スキルを磨き、あるレベルに到達するまでには時間がかかりました。それから、もうひとつ重要なのは「方向転換を恐れないこと」です。難しい状況に陥ったとき、いかに機敏に行動し、方向転換し、自分の分野に関わりがあるかも

いるのだけど、同時に現代とも調和していると感じます。今日は明治神宮に行きましたが、あの静謐な空間を歩きながら、心と自然がつながっていくのを感じました。そして次の瞬間には、商業ビルや街の明かりが輝く都会の中を歩いているのです。日本には、このような異なる世界をうまく調和させる力があると思います。日本人は、これらすべての中に統一性とバランスを見出している。私はこれを「揺らぎ」という言葉で表現していますが、日本にある「揺らぎ」は私にさまざまな刺激を与えてくれます。

JF：最後の質問ですが、「カナダ留学フェア」に参加している学生たちが大勢います。彼らは、留学のまさにスタート地点にいます。あなたから彼らにひとつだけ、アドバイスするとしたら？

Eric：どの道を進んでも確実なことなどないという「不確実性」を受け入れることです。それが人生というものです。いわゆる「障害」と向き合うことで、人は成長します。そうすることで、より強く、よりたくましい人間になれる。同時に、自分の能力や可能性についても、より深く知ることができます。実は、それは恐れることなく、むしろワクワクすることです。不確実性こそが冒険なのです。